

2020年6月3日

日本観光研究学会

日本観光研究学会「新型コロナ・特別プロジェクト」

**新型コロナウイルス収束後の観光行動変容に関する緊急アンケート調査
調査結果（速報値）**

1. 調査の目的

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出制限、並びに航空路線の運休・減便等による世界規模での移動の制約によって、国内外の観光をめぐる状況は一変した。観光関連産業や観光地においては、甚大な被害と先が見通せない不安が広がる一方で、収束後に向けた新たな取組みも模索されている。

そのような中、我が国最大の会員を有する観光系学術団体「日本観光研究学会」としては、アフターコロナ、ウィズコロナ時代の観光の行方について会員の意見を集約し、世の中に発信していくことは重要な役割であると考え、今回、緊急のアンケート調査を実施したものである。

なお、事態は刻一刻と変化しているため、緊急事態宣言中に調査設計し、回答期間を設定した当時と、宣言解除後の現時点でも回答の前提条件が異なるため、本調査は5月段階での意見集約の結果であることに留意していただきたい。また、感染「収束」の定義について、本調査では「政府による外出自粛要請が解除され、移動が自由になった状況」を指すものとした。

今後も継続して調査を実施し、経年の変化を見ていく予定である。

2. 調査時期

2020年5月18日（月）～30日（土）

3. 調査方法

日本観光研究学会の会員対象メールニュースにより URL を案内し、Google フォームアンケートに各自アクセスして回答

4. 調査対象

日本観光研究学会 会員（2020年3月末現在、正会員・準会員 1,083名）

5. 回収数

334件（回収率 31.8%）

【本調査結果の取扱について】

本調査結果を転載する場合には、「日本観光研究学会「新型コロナ・特別プロジェクト」緊急アンケート調査結果（速報値）より」と出典を明記してご活用ください。

[問合せ先] 本調査に関するお問合せはメールで右記にお願いします。 jitr-covid19@jitr.jp

6. 調査項目 *問1、問7、問8は今回の速報値に含まない。

*問1 会員の有無 [SA]

問2 回答者の職業 [SA]

問3 回答者の居住地 [SA]

問4 新型コロナウイルス感染拡大が「収束」したとして、観光需要（国内旅行、海外旅行、訪日旅行）は、次の2つの時期（1年後（2021年春）、2年後（2022年春）までに、それぞれの程度まで復活すると考えますか？ [SA]

問5 今後、どのような観光が望まれていくと思いますか？ [MA]

問6 今後、インバウンド客について、あなたの居住地（都道府県）での住民の受入れ意識はどの程度変容すると思いますか？ [SA]

*問7 今回の事態を踏まえ、今後の観光政策や観光関連産業に対する支援策等のご意見がありましたらお願いします。[記述式]

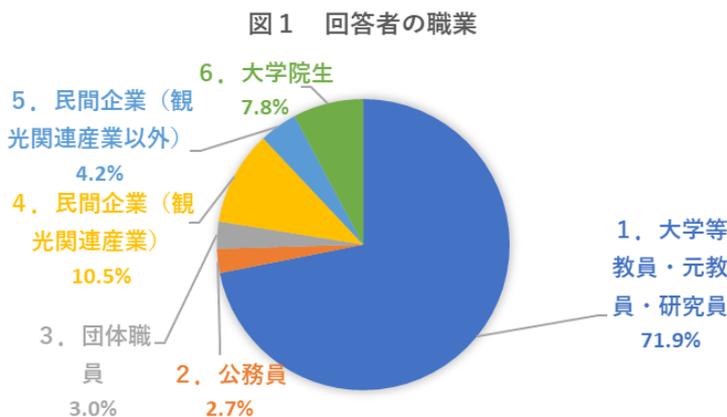
*問8 最後に、今回のコロナ禍に関連して、当学会への期待や要望等がありましたら、ご意見をお寄せください。[記述式]

(SAは単数回答、MAは複数回答)

7. 調査結果

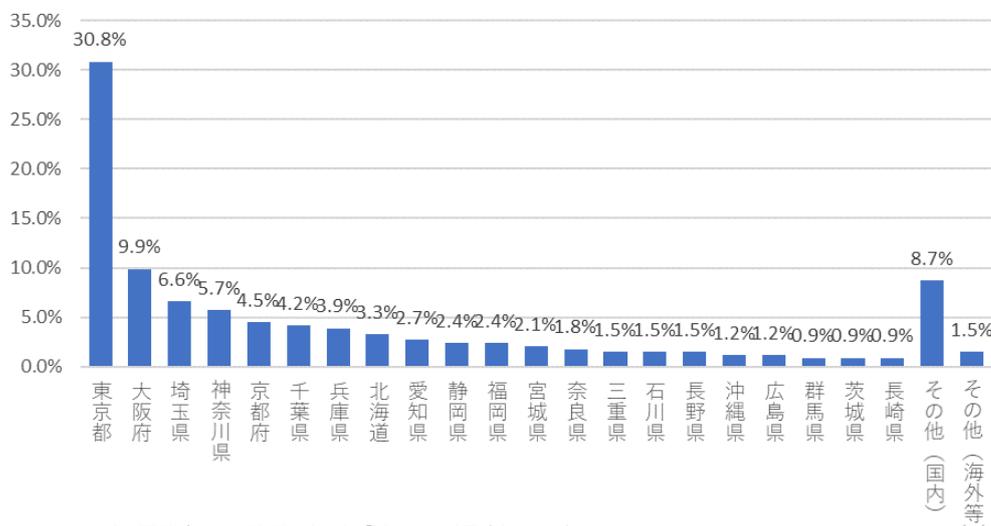
(1) 回答者の概要

①回答者の職業（問2）[SA]



②回答者の居住地（問3）[SA]

図2 回答者の居住地



注) 回答者2人以下の県は「その他（国内）」で集約

(2) 今後の観光需要について

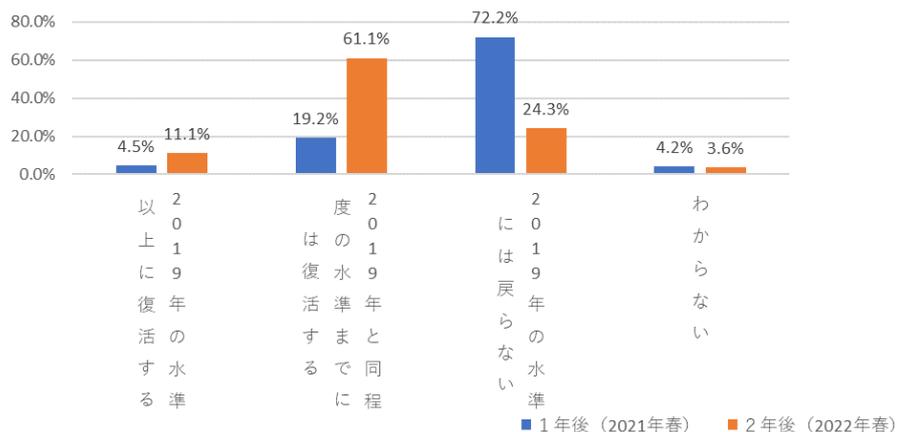
新型コロナウイルス感染拡大が「収束」したとして、それぞれの観光需要は、1年後（2021年春）、2年後（2022年春）までに、それぞれの程度まで復活すると考えますか？（問4）

コロナ前年の水準あるいはそれ以上に需要が復活すると考える観光研究者は、

- ・国内旅行では、1年後で「2割強」、2年後で「7割」となる一方、
- ・海外旅行と訪日旅行では、1年後で「1割未満」、2年後でも「3割程度」とどまる。

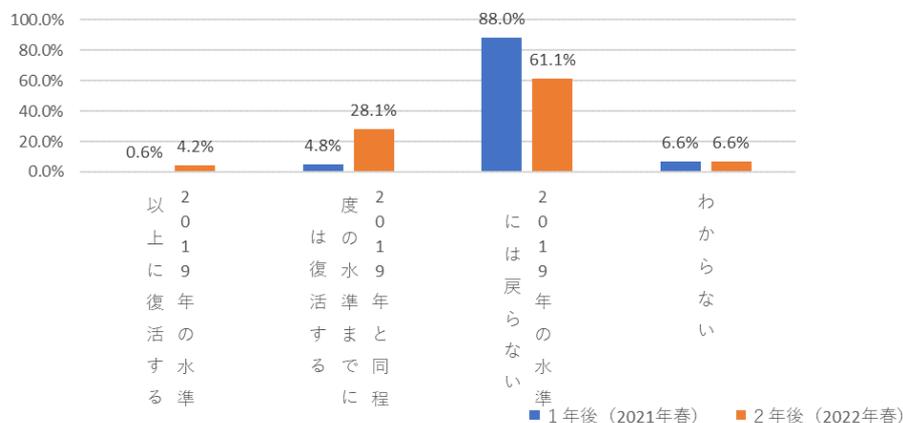
①国内旅行 [SA]

図3 観光需要の予想【国内旅行】



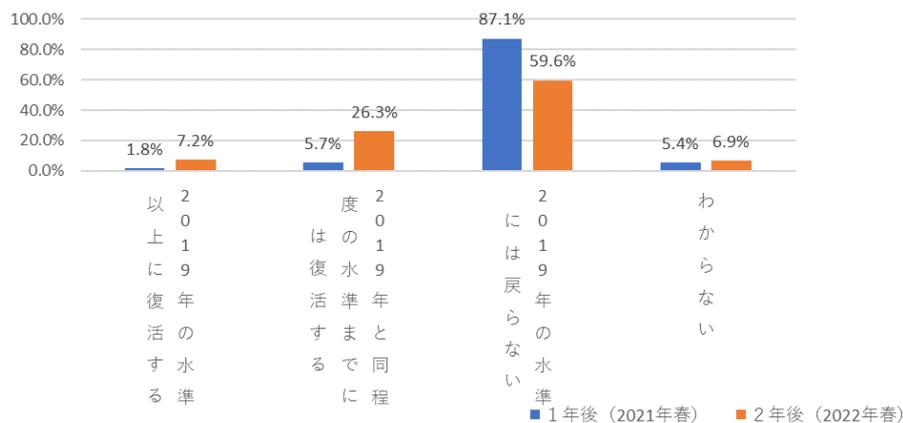
②海外旅行 [SA]

図4 観光需要の予想【海外旅行】



③訪日旅行 [SA]

図5 観光需要の予想【訪日旅行】



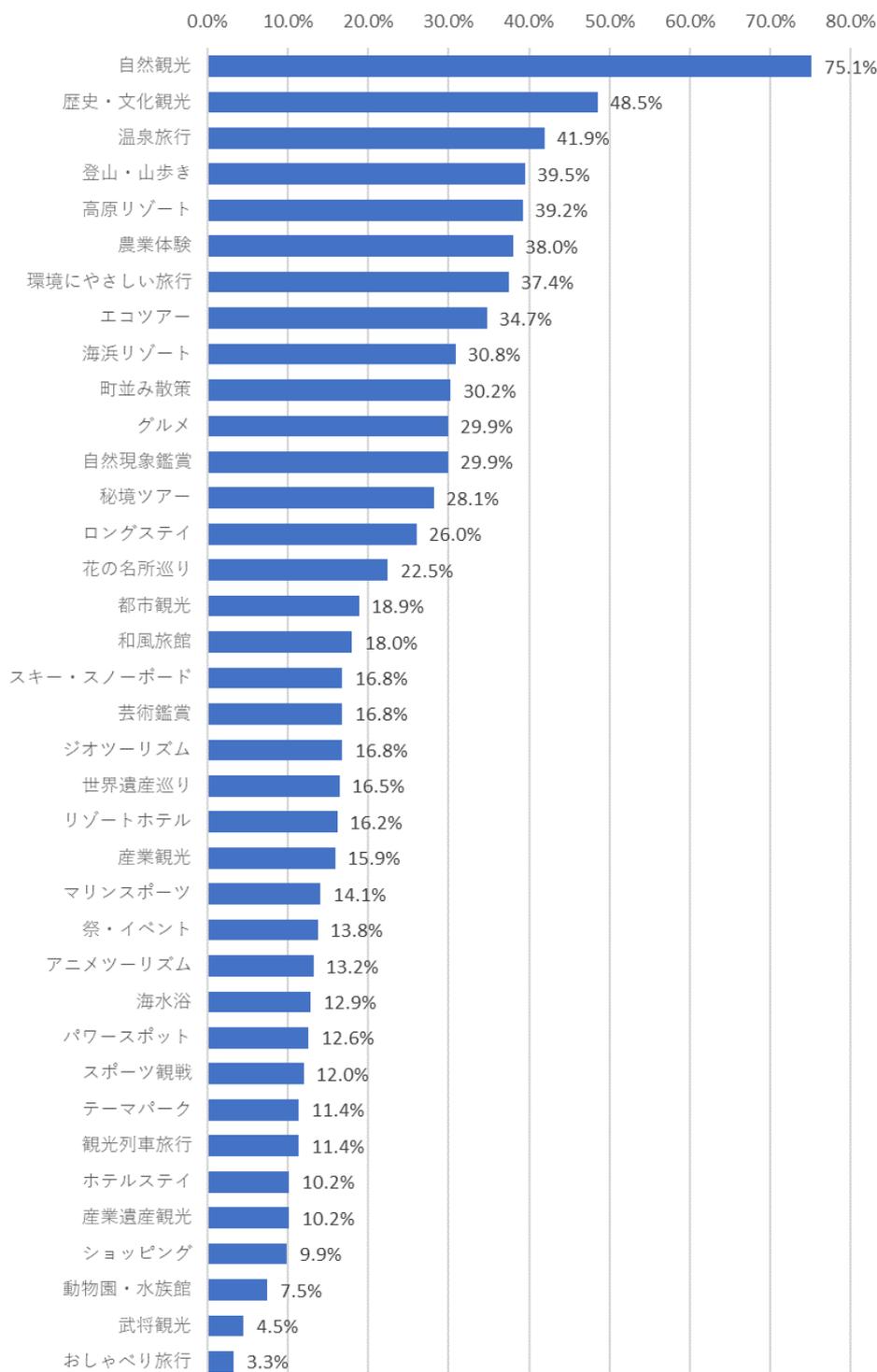
(3) 今後望まれる観光について

今後、どのような観光が望まれていくと思いますか？（問5）[MA]

最も回答が多かった観光は、「自然観光」の75.1%、次いで「歴史・文化観光」の48.5%、「温泉旅行」の41.9%と続き、上位は自然の中での観光に集中している。

一方、「町並み散策」(30.2%)や「グルメ」(29.9%)、「都市観光」(18.9%)も一定のニーズはあると考えられている。

図6 今後望まれる観光 (MA)



注1) 本質問項目は、データの比較が可能なように公益財団法人日本交通公社の旅行年報設定のものを利用している

注2) その他に自由記述で挙げられた観光は、今回は未掲載

(4) インバウンド客に対する住民の受入れ意識の変容について

今後、インバウンド客について、あなたの居住地（都道府県）での住民の受入れ意識はどの程度変容すると思いますか？（問6）[SA]

今後もインバウンド客を「積極的に受け入れていくと思う」と回答した研究者が3割いる一方で、「消極的になると思う」とした研究者が5割、「否定的な反応になると思う」とした研究者が2割となっている。

居住地別でみると、「関西2府1県」及び「北海道」では「積極的に受け入れていくと思う」が4割を占める一方で、「関東1都3県」では「否定的な反応になると思う」とした研究者の割合が2割程度あり、地域別で研究者の意見にも違いが表れている。

図7 インバウンド客受入れに関する住民意識

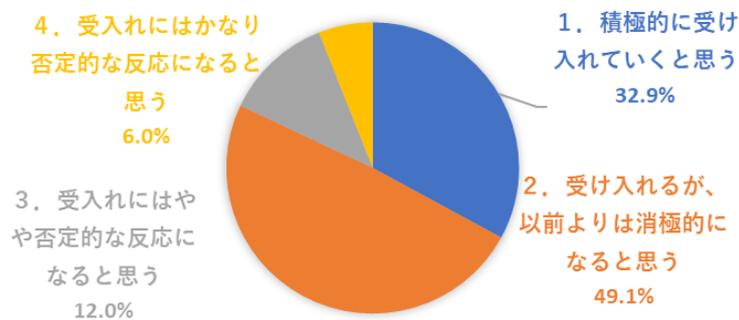


表1 インバウンド客受入れに関する住民意識（回答者居住地別）

	1. 積極的に受け入れていくと思う	2. 受け入れるが、以前よりは消極的になると思う	3. 受入れにはやや否定的な反応になると思う	4. 受入れにはかなり否定的な反応になると思う	総計
東京都	29	51	15	8	103
埼玉県	7	15			22
神奈川県	2	10	7		19
千葉県	2	10	3		15
1都3県	40	86	25	8	159
	25.2%	54.1%	15.7%	5.0%	100.0%
大阪府	14	14	2	3	33
京都府	7	5		2	14
兵庫県	4	6	2	1	13
2府1県	25	25	4	6	60
	41.7%	41.7%	6.7%	10.0%	100.0%
北海道	5	5	1		11
	45.5%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%

注) 回答者10名以上の居住都道府県のみ抽出。

以上